

世田谷区 フォスタリング事業のこれまでとこれから

2023.6.4

社会福祉法人 東京育成園
フォスターホームサポートセンターともがき
副センター長 岩田 祐一郎

世田谷の里親相談室

SETA-OYA



社会福祉法人 東京育成園

所在地: 世田谷区上馬

児童養護施設と保育園を運営

児童養護施設定員: 55名

本園/グループホーム計11軒の小舎制で生活

フォスターホームサポートセンター とも がき

世田谷区より業務委託を受けたフォスタリング機関

岩田祐一郎

2010 ケアワーカーとして児童養護施設入職

2013～ 里親支援専門相談員

2020～ フォスタリング現場責任者

2023～ 同 統括責任者



平成31年
/令和元年

- ・法人内の体制検討
- ・世田谷区
プロポーザル参加
- ・受託決定

令和2年

- ・普及促進リクルート
研修トレーニング
2事業開始
- ・準備と実施
を同時進行
- ・コロナ対策

令和3-4年

- ・事業継続と発展
- ・包括委託の
プロポーザル参加
- ・受託決定

令和5年

- ・包括受託開始

フォスタリング事業のうち以下2事業を受託。4名体制でスタート。

○普及促進・リクルート事業 ○研修・トレーニング事業

開始にあたって大事にしたかったこと

1. 子どもたちへ「家庭養育の提供」

一人でも多くの子が、里親家庭で生活できるよう、リクルートを行う

2. そしてその「家庭養育の継続支援」

研修トレーニングを通し、里親家庭での生活安定を支援する

3. 事業を「里親子と共に創る」

上記の視点を基軸としつつ、かかわる子どもたち、里親さんのニーズを重視して、ともに事業を組み立てていく。

○実績

コロナ禍のスタート、準備と実施を同時並行...
 とにかくできることからできる範囲で進めていきました。
 研修、地域の支援機関による講義を作り、登録時点から関係づくりに努める。



郡内には約4000人の児童と生活できないお子さんがいます。
 映画を通して子どもたちの権利について一緒に考えませんか？

Taski and the MONK

～無料オンライン上映会～「子どもの権利を考える」
 日時：2020/10/17(土) | 上映 14:00～ | 意見交換会・里親制度説明 15:00～

会場：Zoom (参加申し込みをした方のみIDをお送りします)
 費用：無料
 申し込み方法：①右のQRコードから入力
 ②もしくは、下記URLをご参照ください。
 【<https://seta-oya.com/posts/movie>】
 受付期間：2020/9/25(金)～10/14(水)

主催：フォスターサポートセンター「ともがき」
 児童養護施設「東京育成園」が世田谷区より里親支援事業委託を受け活動しています。お問い合わせ先：t-recruit@to-ku.or.jp

世田谷の里親相談室
SETA-OYA

オンライン映画上映会 ／制度説明会



Vol.3 養育家庭編

**里親
カフェ**

フォスターホームサポートセンター
 ともがき

2021.6.19
2-4PM

東京育成園
 1階

世田谷区上野4-10-1
 東京育成園 3階
 駒沢大駅 徒歩7分

会って、話せる
 里親になさるごほうじたらいい？子どもを育てるのって大変？
 子どもたちの「里親礼儀」に困る方の方に向け、実際に子どもを養
 育された経験のある里親さんをお招きし、質疑応答を交わす機会とに
 なしました。
 本日は「養育家庭編」として、養育家庭として様々な大変、子どもと世
 帯して経験がある里親さんをお招きします。

①里親制度説明は里親さんの体験談が里親さんとの懸念
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底して実施します

お問い合わせ先
 世田谷区子育て支援課
 児童養護施設「東京育成園」

世田谷区子育て支援課
SETA-OYA

お問い合わせ先
 児童養護施設「東京育成園」
 〒158-8501 東京都世田谷区上野4-10-1
 TEL:03-3492-7118
 Email: f-foster@to-ku.or.jp
 Hgpa: f-foster@to-ku.or.jp

里親希望者と里親の 座談会

里親になるということ。
それは、誰かの大切な場所になること。



Vol.1

「私にはムリなのかもと、ずっと不安だった」シングルマザーが里親として子どもと食卓を囲むまで



Vol.2

里親のもとで、兄弟になる。餃子を包みながら聞いた、家族のはなし

専用サイト制作
インタビュー、制度説明、研修申し込み、問い合わせフォームなど

キャッチコピー
里親になるということ。
それは、誰かの大切な場所になること。

令和2年度より2事業を継続。
基盤のさらなる整備を通し、できることを増やしていった一年。

新たな取り組み...

普及促進・リクルート

チラシ等紙媒体 / WEB広告出稿 / 公式LINE開設 / 写真展開催 /
社会福祉協議会との協働 / 研修でつながった地域機関職員向け講座

研修・トレーニング

連続プログラム / 新規登録家庭へのトレーニング訪問 /
地域機関(児童館、おでかけひろば、自立援助ホーム他)での実習



写真展

里親 になるということ。
それは、誰かの大切な場所になること。

世田谷の里親。これは希望、夢、希望、夢の裏面を覗くことができて、誰かの大切な場所になること。それは、誰かの大切な場所になること。

世田谷の里親相談室 SETA-OYAの公式SNSが開設しました。SNSでは、サイトの更新情報やイベント情報などをお知らせしていく予定です。ぜひフォローやシェアなどで応援ください！

【Twitterアカウント】
[@SETAOYA](https://twitter.com/SETAOYA)

【Facebookアカウント】
<https://www.facebook.com/SETA-OYA-108722566266297/>

世田谷の里親相談室 SETA-OYA

チラシ

< 99+ 世田谷の...TA-OYA

SNSアカウント開設のお知らせ

世田谷の里親相談室 SETA-OYAの公式SNSが開設しました。SNSでは、サイトの更新情報やイベント情報などをお知らせしていく予定です。ぜひフォローやシェアなどで応援ください！

【Twitterアカウント】
[@SETAOYA](https://twitter.com/SETAOYA)

【Facebookアカウント】
<https://www.facebook.com/SETA-OYA-108722566266297/>

世田谷の里親相談室 SETA-OYA

公式LINE

- ・2年間の基盤をさらに発展させた年。
- ・里親希望者だけでなく、メディア等からの問い合わせも増加。
- ・併せて、他団体と協働した施策を実施したり、施策のメディア露出などもあった。
- ・他、面接方法の改善、セルフチェックシート作成、ライブラリ開始

里親登録希望者の問い合わせ実績(経年)

- ・総数は減少
- ・WEBフォームからの問い合わせが半数以上
- ・養育家庭希望の問い合わせが増加

▶ 年齢、性別、実子の有無など様々な社会貢献意欲のある方に届いている様子

		R2	R3	R4(~9月末)
合計		93	76	70
内訳	TEL	57	34	24
	来所	6	1	5
	WEB(2020.9~)	30	41	41
種別	養育家庭	34	38	45
	養子縁組	22	28	15
	他	37(含検討中)	10	10



駅構内に大きなポスター



他団体、企業（アパレル、カフェなど）と協働したイベント開催



里親さん向け書籍貸し出し



商業施設での啓発イベント



他新聞／ラジオ等メディア社協通じた出前講座など

この間、里親さんや児童相談所との連携

何事も相談。一緒に考える。

- ・トレーニング訪問に使う様式や、研修のためのセルフチェック表作成にあたり意見をもらったり...
- ・書籍貸し出しサービス開設時、揃えたい書籍をお聞きしたり...
- ・世田谷区の子どもたちのニーズを聞いてリクルートに反映させたり...

協力いただくこともたくさん

- ・研修の講師、研修の体験談
- ・里親カフェ(普及啓発イベント)のスピーカー
- ・サイトのインタビュー、LINE配信用ショートストーリー
- ・書籍貸し出しサービス活用促進のためのおすすめ書籍紹介を書いてもらったり

そして、令和5年度 包括委託となってスタート

4年度までの

「普及促進・リクルート」「研修・トレーニング」に加え、
「マッチング支援」「養育支援」が開始。

体制

里親リクルーター／里親トレーナー／里親等委託調整員／里親等相談支援員／自立支援相談員
計8名

主な担当業務を持ちつつも、情報共有し全員が各事業に関わる。

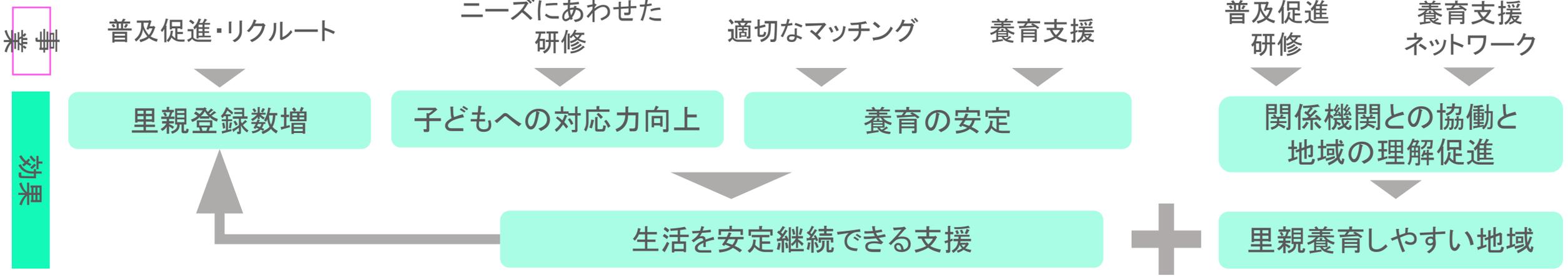
児童相談所・本体施設内にそれぞれ事務所。対応はローテーション。

平日8:30～21:00 土日祝9:00～17:00



包括になってみて

目指すこと 連続性のある事業実施



段階的なフォスタリング業務委託について

- ・児童相談所の業務も見え、相互理解がある中で包括的な業務を開始できた
担当者同士の関係性、業務に必要な視点の共有、補完しあう視点 など
- ・普及促進、研修に注力できたからこそ取り組みを充実させられた
“子どもの養育(=子どもの福祉/利益)”から逆算して事業を作る必要性
手前の部分しかできないからこそ、引き継ぐ、託す視点で事業を組み立てた

今後に向け

施設の機能を活用した事業の推進

母体である児童養護施設で積み重ねた、社会的養護の子どもへの支援実践を里親家庭で生活する子どもたちの支援に活かしていく。

案：施設の学習支援教室やキャンプへの受け入れ、自立のためのプログラム など

地域の子ども支援においてできることを考える

- ・社会的養育の対象はすべての子ども
- ・“自治体のフォスタリング機関”として、地域の子どものために事業を展開したい。

例えば...

- ・家庭復帰を見守ってくれる里親さんを増やす
- ・ファミサポや協力家庭ショートステイと連携して、要支援の家庭のサポートをするなど、子どもたちのために、里親さんが活躍できる(生活しやすい)地域を作っていく。